

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

作成日：2023年 3月 9日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	国際関係		
講師幹事名	鈴木 庸一	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学期	2023年(春夏)・秋冬	開講時間	水曜 4～5時限

【授業の目的・到達目標】

ロシアのウクライナ侵略から一年、緊張を高めながらも比較的安定し協力的な大国間関係が存在した「ポスト冷戦」時代は完全に終わりを迎えた。ウクライナにおける戦争終結への道筋が見えない中で、エネルギー供給の不安定化やインフレに直面する西側諸国では、対ウクライナ支援の持続可能性と民主主義の強靱性が試されている。

他方インド太平洋地域では、数年来高まりを見せてきた米中間の緊張が2022年には特に台湾を巡って高まり、近い将来の大幅な緊張緩和は見通せない。ウクライナ戦争及び米中対立激化の中で民主主義対権威主義の対峙、あるいは「新たな冷戦」とも呼ばれる世界のブロック化が生じつつある。

このような状況の中、異常気象の激化の前に人類にとり温暖化対策、脱炭素化は待たなしであり、また国際社会は今回のコロナ禍の経験を踏まえて10年以内にあるとも言われる将来の新たなパンデミックに備える必要がある。ところがこのため必要な多国間の枠組みを通じた国際協力は今や深刻な危機に陥り、食糧やエネルギー 危機の影響を最も強く受けるグローバル・サウスの国々は、不安定化する国際秩序の中での国益の確保という課題に直面している。世界は、冷戦終結以来の安全保障体制の前提がもはや維持されず、第二次世界大戦終結時に構築されて以来米国が主導してきた、ルールに基づく国際秩序の根幹も脅かされる、分断と不安定化の新たな時代を迎えている。

本ゼミでは、このような状況の中で国際社会はどのような行動原理で動いているのかについて概観し、様々な国際問題について理解を深め、今後の国際秩序がどのように発展するか占う視点を養う。同時に国際関係の第一線にいるということはどういうことかについての実践的理解を養う。さらに、日本として、また市民として国際社会が抱えている様々な課題にどのように対応していくべきなのかなどについても議論を深める。

【上記目的・目標達成方法】

外務省OB及び現役の各講師が分担して実務体験と外交現場の視点を踏まえて、現下の主要な外交・国際問題についての知見を学生と共有し、共に考え、議論する機会を設ける。多国間体制については、いかなる状況で現在の多角的ルールを遵守する国際秩序を維持しようという機運が後退し、今後どのようにしてそれに代わる新たな国際秩序が形成されていくのか、国連及びWTOといった多国間協議の現場での交渉の実態を紹介しながら学生の実践的理解を深め、そのような現場に関わることにについて、考えるきっかけや気づきの機会を提供する。

【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
4/26	鈴木 庸一	S50 (法)	元駐フランス大使 元日 EU 経済連携協定交渉 首席交渉官	[4限] 本ゼミの序論として現下の国際情勢を概観する。 [5限] 国際経済秩序を規律した多角的国際貿易ルールの形骸化のプロセスを分析し、今後の国際経済秩序の在り方を予測する。
5/10	竹内 春久	S50 (経)	元駐シンガポール大使	[4限] 日本外交の基本的立ち位置： 日本の置かれた地理的、地政学的条件を概観し、日本国憲法のもとにおける外交の制度的枠組み、指導原則を論ずる。 [5限] 国際交流の実際： 国際交流を通じて国際社会の対日理解をどのように深めるのか、そのための制度・政策、実践面での取り組み、課題などを論じる。

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

5/24 (4, 5限)	角 茂樹	S52 (商)	玉川大学、岩手大学、上智大学、 川村学園女子大学 客員教授 元ウイーン代表部、国連、バー レーン、ウクライナ大使	ロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与えた影 響、について議論します。国連の役割とその限界につ いても議論します。 外交官の役割、その生活について説明します。国連P K Oに日本が参加するに際して問題となった憲法上の 問題をどのように解決したかについて私の経験の基 づいて説明します。日本の安全保障の問題についても私 が防衛庁 (当時) に努めた経験を踏まえ説明します。
7/5 (4, 5限)				
6/7 (4限の み)	齊藤 貢	S55 (社)	東洋英和女学院大学非常勤講師、 国士舘大学非常勤講師、 岡崎研究所コメンテーター、 前イラン大使	日本の原油輸入の約 95%を占める中東地域では紛争が 絶えません。中東地域の不安定さの原因、現状、これか らの見通しについて講義します。 1. 中東地域の原油は日本の生命線ですが、では日本と 中東との関係はどうなっているのでしょうか？ 2. 外交官は外国で何をしているのかについてお話し します。 (注) この講義については下記のとおり学生へのメッ セージあります。
6/21 (4限の み)				
6/14	神谷 政廣	H24 (経)	外務省国際協力局気候変動課 課長補佐	エネルギー安全保障の確保と世界の脱炭素化の実現の 両立に向けた気候変動外交の現状と課題
6/28 (4限の み)	川村 泰久	S56 (法)	元国連大使 前駐カナダ大使 元 OECD 東京事務所長	国連の現状と日本の安全保障 (2016—17 年日本の安全保障理事会での経験をもと に) (含・国連・国際機関で働くということ)
7/12 (4 限のみ)				インド太平洋と安全保障

【テキスト・参考文献】

- 外交青書及び防衛白書 (総論部分)
- 日本国際問題研究所 2022 年版戦略年次報告
- Hans J. Morgenthau: Politics among Nations (初稿は 1948 年。大著であるが、多くの人が認める国際政治に関する最も包括的かつ優れた文献。読破することは容易ではないが、時間的余裕があれば、少なくとも最初の部分だけでもページをめくり、論理の流れを把握できれば、得るところは多い)
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power 。比較的読みやすいのでご関心があれば目を通す価値あり
- 齊藤貢講師：
齊藤貢、2022 年、「イランは脅威か—ホルムズ愛嬌の大国と日本外交」、岩波書店
酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社
池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社
- その他の講師からも講義前に読むべき参考文献についてゼミ学生幹事より連絡の可能性がありますので、読むようにしてください。

【受講生に対するメッセージ、希望】

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

- 学生幹事を通じて各講師よりゼミに前に簡単な課題を出すことがあるので、そのような場合は準備してゼミの臨んでください。
- 学生による discussion を奨励します。積極的に発言することを期待します。特に4,5限を通してやる講義では5限は discussion が中心になる事が多いです。
- 講義内容に関係のあると思われるマスコミ報道等に注目し、自分なりの疑問点、問題意識を整理しておいてください。
- 齊藤講師：
 - ① 急速な脱炭素化が進んでいますが、脱炭素化のスピードに現実が追いつかず、現在、世界は、一時的なエネルギー不足に陥り、エネルギー価格が高騰しています。ロシアのウクライナ侵攻もこの傾向に拍車を掛けています。そのため世界の1/3の原油を生産する中東地域、とりわけペルシャ湾地域の重要性が飛躍的に高まっています。
 - ② そして、日本は、依然としてエネルギー源として原油に30%以上依存し、その95%がペルシャ湾地域から来ています。しかし、「備え無ければ憂い無し」で日本人は、この事を認識しておらず、中東に対する関心もありません。しかし、中東地域では、イランの核開発問題、イエメン内戦、シリア内戦、パレスチナ問題と紛争と対立が絶えません。
 - ③ この講義では、中東について知識の無い学生に対して、中東に関する必要最低限の知識と日本と中東の関わりについて講義します。
 - ④ 外交官というとパーティーでシャンパンを飲んでいる気楽な商売というイメージがありますが、実際はどうなんですか。外交官の実像についてお話をします。